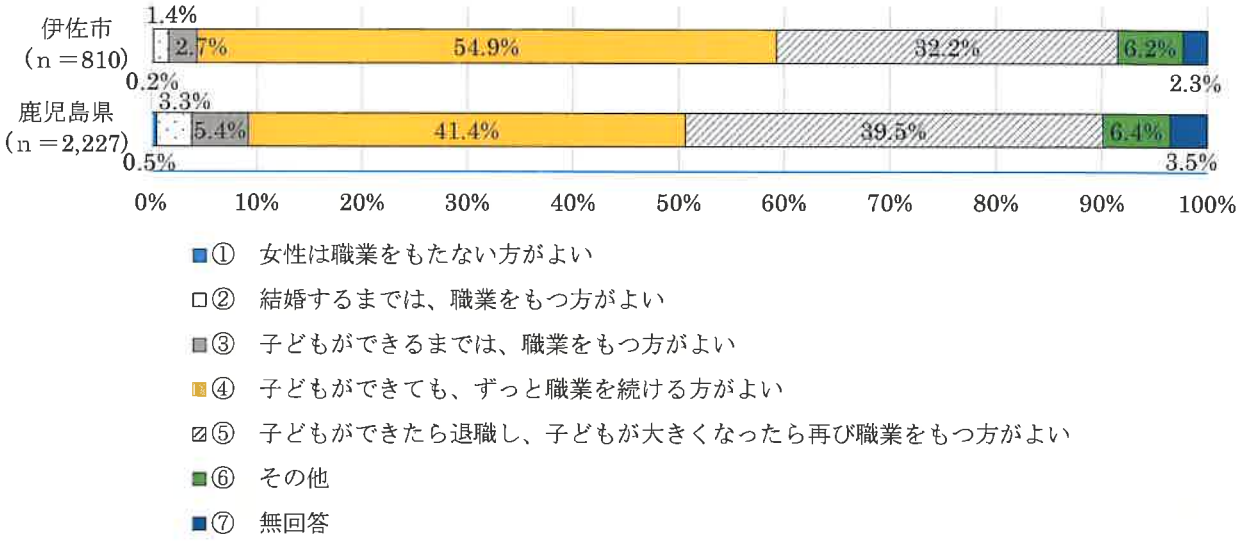
③　就業について

問４　一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。
（自分の考えに最も近いものを１つだけ選択）

女性が職業をもつことについて、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」（54.9%）と答えた割合が最も高く、次いで「子どもができたら退職し、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」（32.2%）、「その他」（6.2%）、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」（2.7%）、「結婚するまでは、職業をもつ方がよい」（1.4%）、「女性は職業をもたない方がよい」（0.2%）の順となっている。

鹿児島県と比較すると、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた割合は、伊佐市の方が13.5ポイント高くなっている。

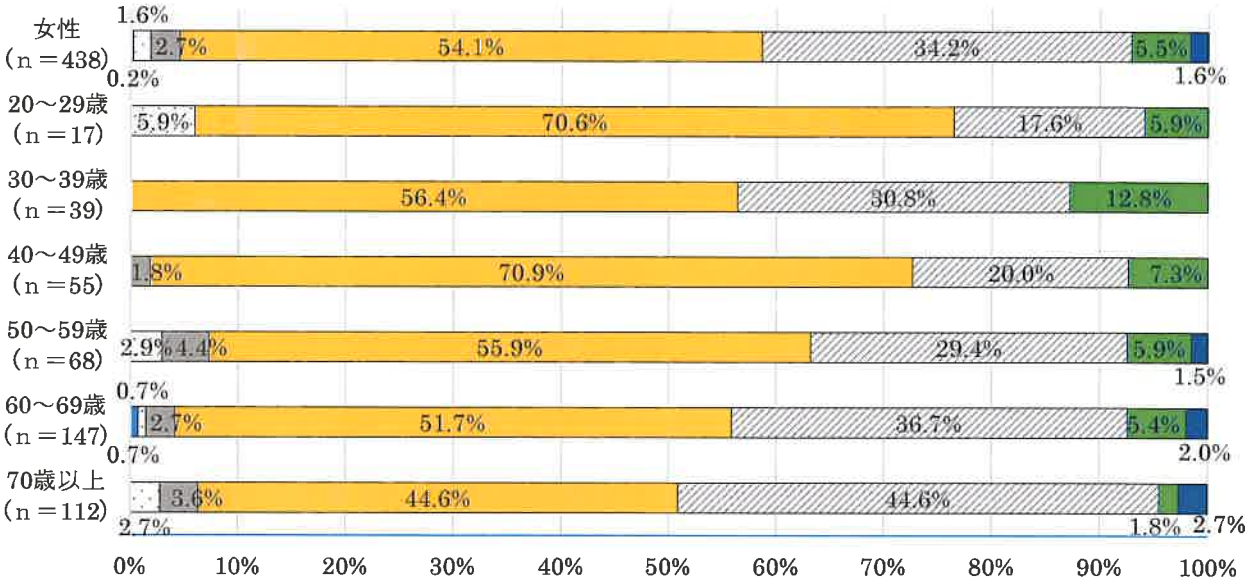
女性が職業をもつことについて　【県との比較】



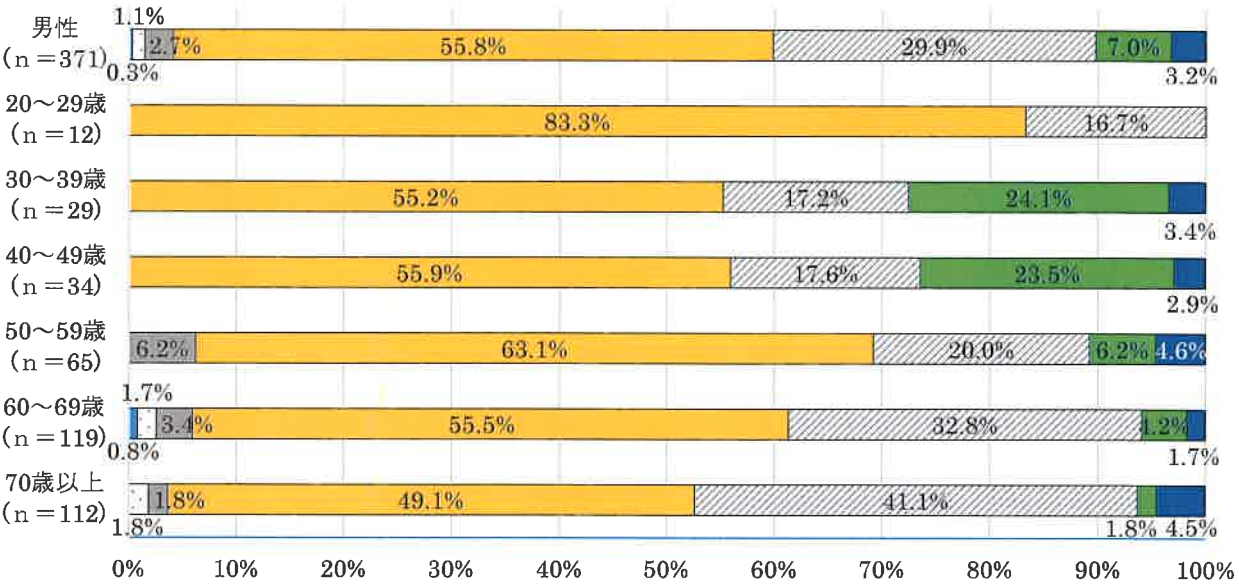
性別でみると、男女とも「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」（女性54.1%、男性55.8%）と答えた割合が最も高く、大きな差はみられない。回答の順は、男女とも同じとなっている。

性別、年代別でみると、女性では「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた割合が、20歳代（70.6%）、40歳代（70.9%）で高くなっており、70歳以上では、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」と「子どもができたら退職し、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が同率となっている。男性では「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」と答えた割合が全年代で約５割以上となっており、20歳代では83.3%と特に高くなっている。

女性が職業をもつことについて　【女性、年代別】



女性が職業をもつことについて　【男性、年代別】



≪その他の回答≫

●職業につくことについて、女性個々の考え方により優先すべき。

●自主性優先で良い。

●いつでも、望めば可能に。

●その人自身が希望する道を選べばよい。

●その人個人の判断に委ねる方がよい。

●女性自身の選択に任せるべきである。

●女性本人がきめること。

●女性が自由に選べればいい。（どうしたいかを。）

●個人の選択にまかせて良い。

●一人一人の考えで良い。

●その人が、願うやり方がその通りできたらいい。

●個々それぞれの考えで、決めればいいと思う。（状況に応じて変化）

●好きにしたら良い。

●出来る範囲ですれば良い。

●個人の好きな様に、選択して行けばよい。

●職業をもつ、続けるなどは個人の自由。

●本人の意思。（結婚や子どもは、関係無い。）

●男性同様、どの様な選択も社会的に認める。①～⑤のどれかは本人次第。

●各家庭の事情により異なる。

●家庭環境により、各々判断すべき問題。

●家庭状況・経済的状況によって変わるが、女性・妻の判断考えを考慮する。

●その家庭で話し合った、家族の納得のいく方針であれば良いと思う。「こうでなければならない」ということはないと思う。

●個々によって、異なると思います。断言はできない。

●それぞれの立場で、違うだろうから、１つ選ぶのはできない。

●一般的に、決めつける事ではなく、個人の能力によると思う。

●子供にとってどういう働き方が良いのか考えて働く。

●子供が幼稚園、保育園に行くようになったら職業をもつ方が良い。

●④と⑤を選択できる環境であってほしい。

●④と⑤の間です。

●⑤に近いが、その時の状況、職業等で、柔軟に対応すればよい。

●自分は④だが、考えは人それぞれだと思う。

●経済的に、働かざるを得ない。

●仕事ができる環境であれば、仕事をしたい人は、した方がよいと思う。

●職業をもつ、もたないを自由に選べる環境が必要。「経済的に仕方なく働く」場合は多いと感じる。支援が必要。

●経済的に、仕事をしなくても子育ての間充分なお金があれば、職業をもたなくてもいいと考えます。

●普通に働けば、いいんじゃない？

●天職であれば、協力し続ける。天職と思えなかったり、生活が安定していたら退職する。

●ずっと職業をもつのが理想だが、家庭や職場、行政のサポートがないと厳しいかも。

●この質問自体が女性への偏見。その人に応じて。

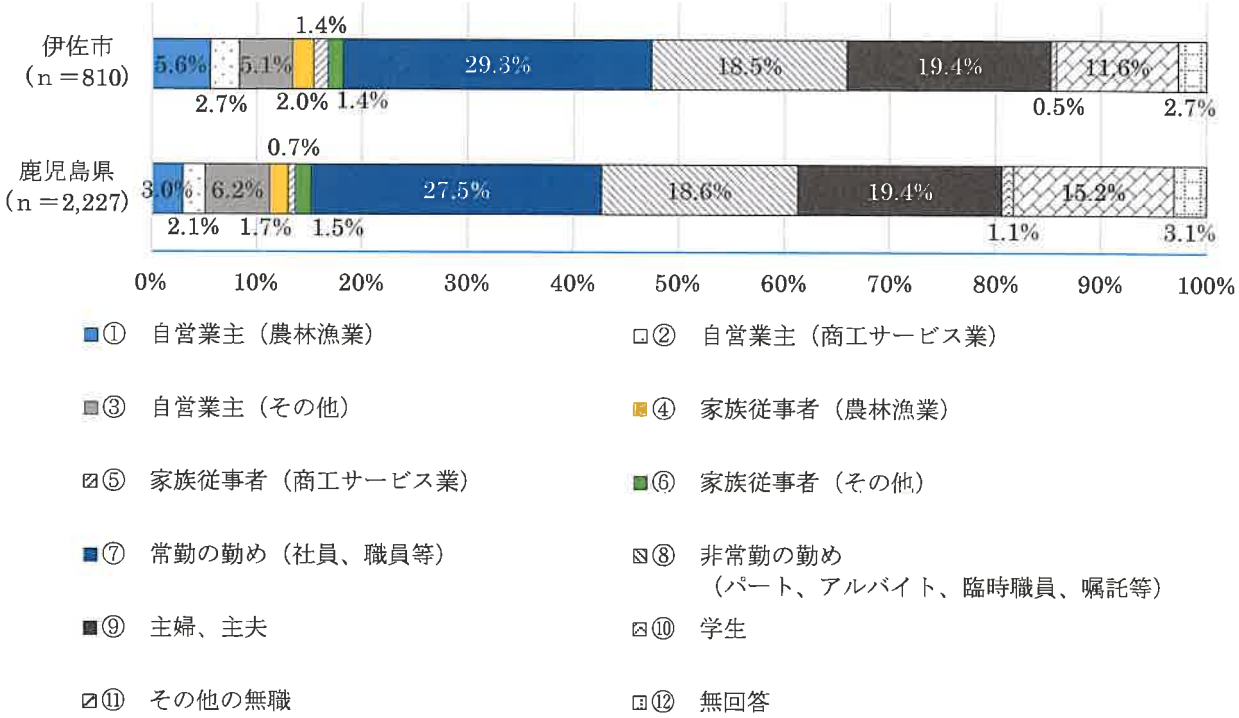
●この質問がすでに、女性差別だと思います。

問５　あなたの職業をお選びください。（１つだけ選択）

現在の職業について、「常勤の勤め（社員、職員等）」（29.3％）と答えた割合が最も高く、次いで「主婦・主夫」（19.4％）、「非常勤の勤め（パート、アルバイト、臨時職員、嘱託等）」（18.5％）の順となっている。

鹿児島県と比較すると、大きな差はみられない。

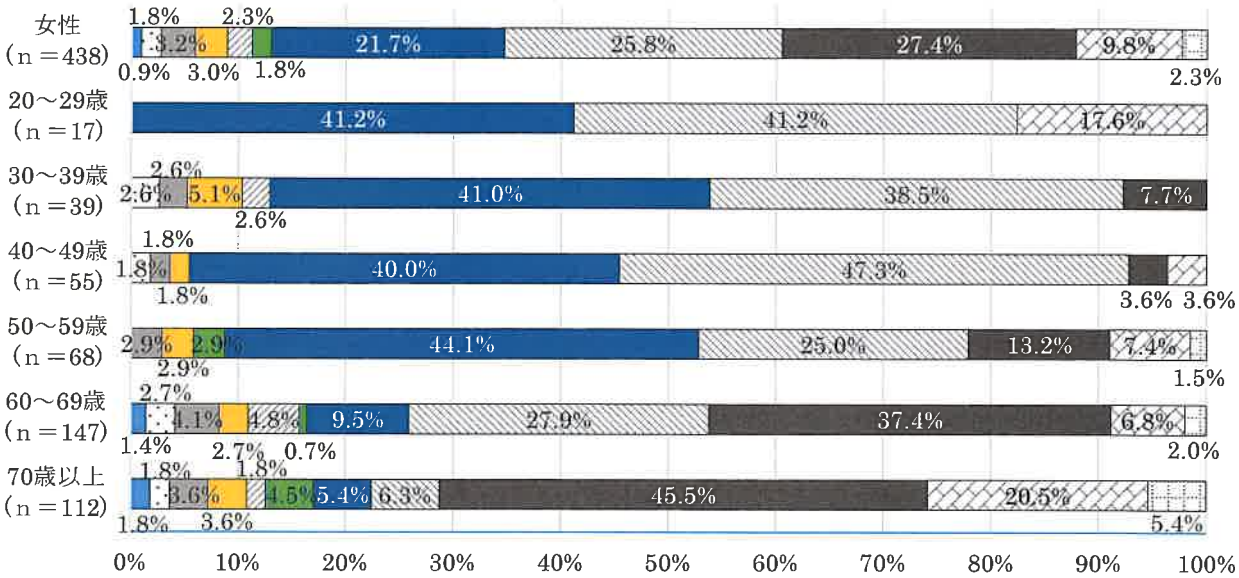
現在の職業　【県との比較】



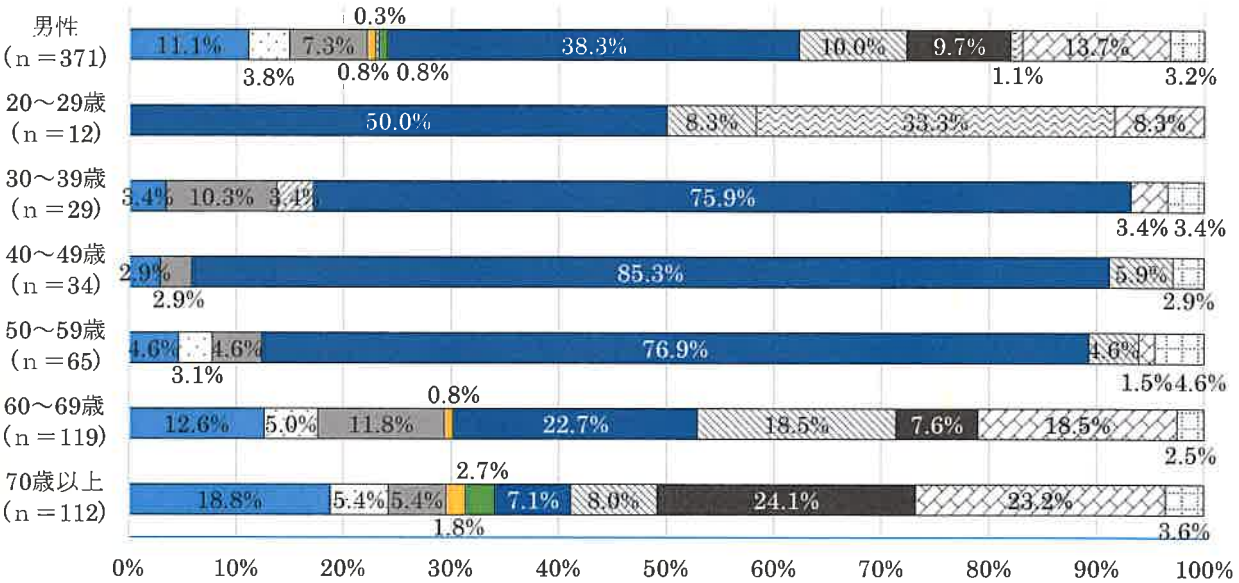
性別でみると、女性は「主婦・主夫」（27.4％）、男性は「常勤の勤め（社員、職員等）」（38.3％）と答えた割合が最も高くなっている。

性別、年代別でみると、20歳代から40歳代の女性では、「常勤の勤め（社員、職員等）」と「非常勤の勤め（パート、アルバイト、臨時職員、嘱託等）」がおおむね同率となっている。また、30歳代から50歳代の男性では「常勤の勤め（社員、職員等）」と答えた割合が７割以上となっているが、20歳代から50歳代の女性では約４割で、大きな差となっている。

現在の職業　【女性、年代別】



現在の職業　【男性、年代別】



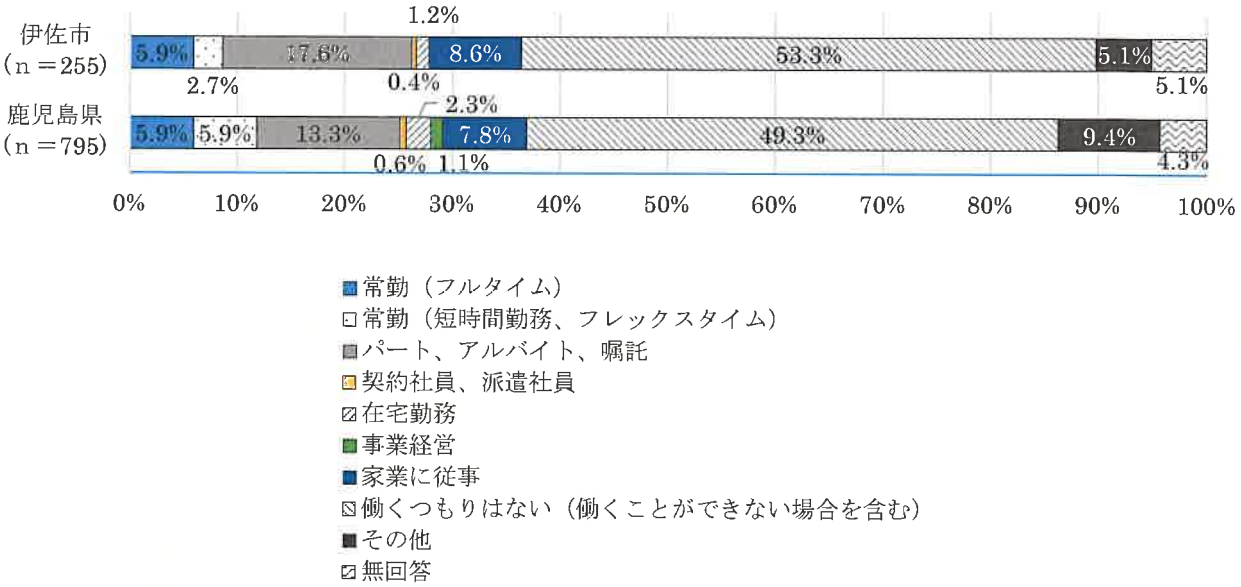
【問５で無職「⑨～⑪」と答えた方へお尋ねします。】

問６　あなたはどのような形で働きたいですか。（１つだけ選択）

今後、希望する働き方について、「働くつもりはない（働くことができない場合を含む）」（53.3%）と答えた割合が最も高く、次いで「パート、アルバイト、嘱託」（17.6%）、「家事に従事」（8.6%）の順となっている。

鹿児島県と比較すると、「働くつもりはない（働くことができない場合を含む）」、「パート、アルバイト、嘱託」の割合は、伊佐市の方が４ポイント以上高くなっている。

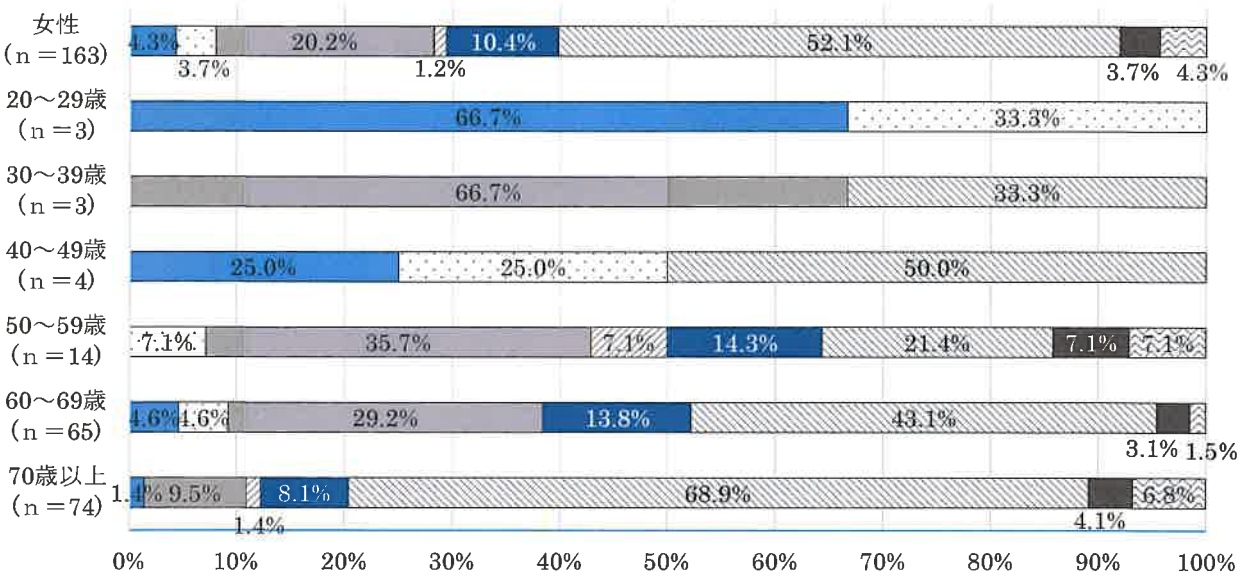
今後希望する就労形態　【県との比較】



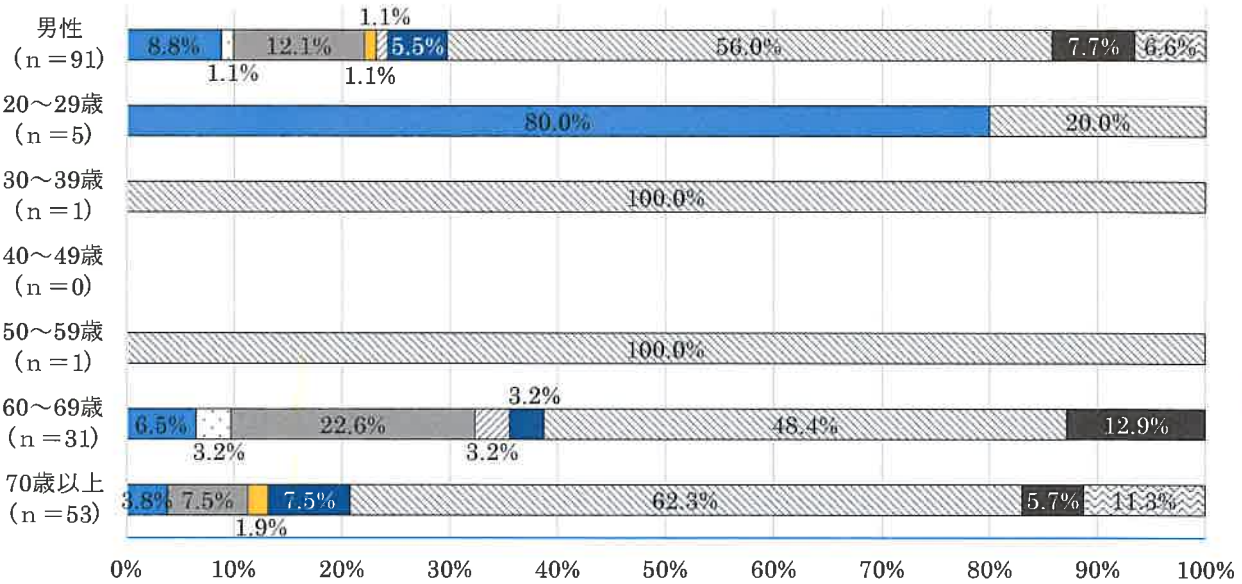
性別でみると、男女とも「働くつもりはない（働くことができない場合を含む）」（女性52.1%、男性56.0%）と答えた割合が最も高くなっている。

性別、年代別でみると、男女とも60歳代以上の４割以上が、「働くつもりはない（働くことができない場合を含む）」と回答している。

今後希望する就労形態　【女性、年代別】



今後希望する就労形態　【男性、年代別】



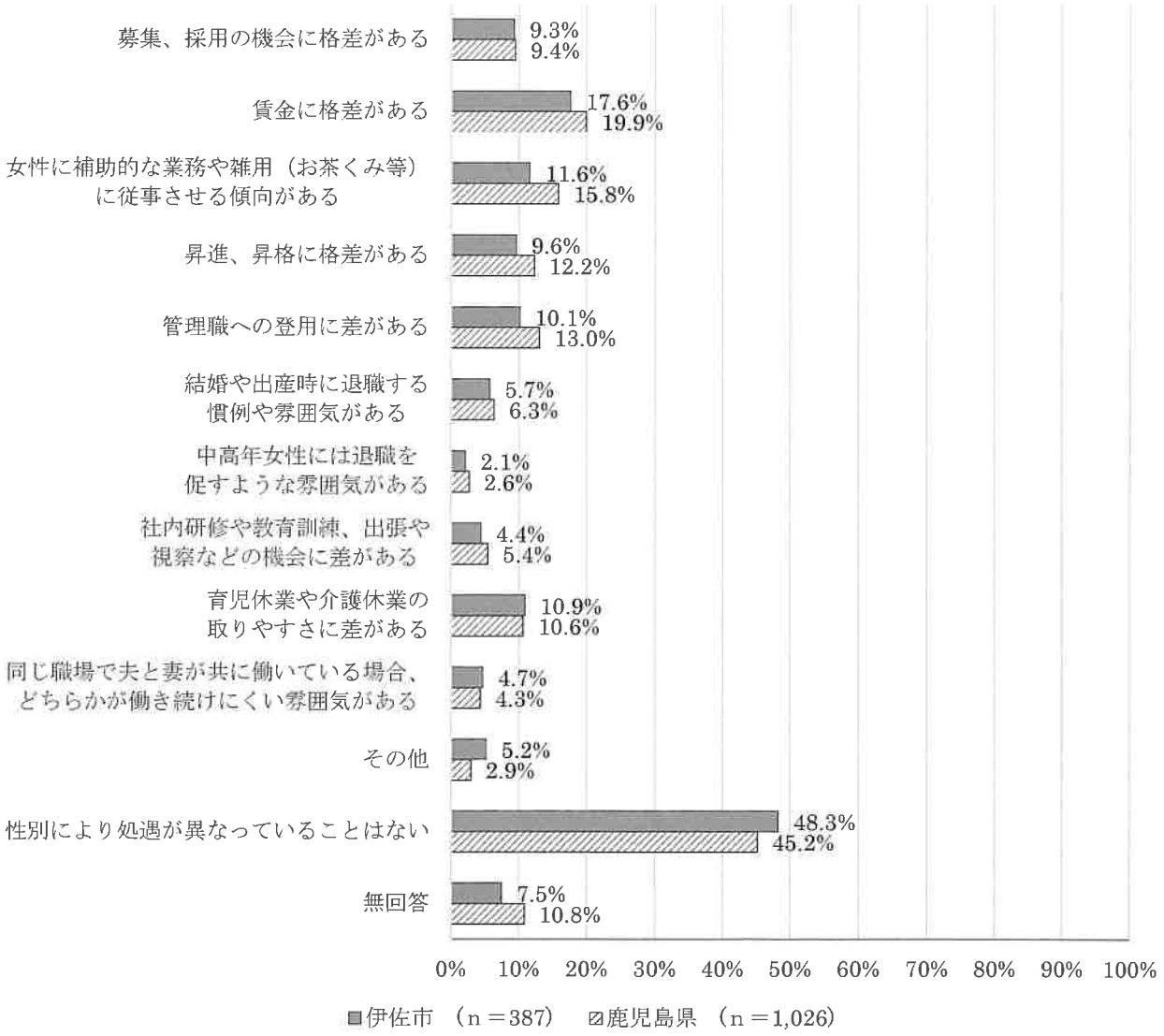
【問５で雇用者「⑦」又は「⑧」と答えた方へお尋ねします。】

問７　あなたの職場では、性別によって処遇が異なりますか。（いくつでも選択）

職場における性別による処遇の違いについて、「性別により処遇が異なっていることはない」(48.3%)と答えた割合が最も高く、次いで「賃金に格差がある」(17.6%)、「女性に補助的な業務や雑用（お茶汲み等）に従事させる傾向がある」(11.6%)の順となっている。

鹿児島県と比較すると、「性別により処遇が異なっていることはない」と答えた割合が3.1ポイント、「同じ職場で夫と妻が共に働いている場合、どちらかが働き続けにくい雰囲気がある」と答えた割合が0.4ポイント、「育児休業や介護休業の取り易さに差がある」と答えた割合が0.3ポイント、伊佐市の方が高い結果となっている。

職場での性別による処遇の差　【県との比較】



性別でみると、男女とも「性別により処遇が異なっていることはない」(女性45.2%、男性52.0%）と答えた割合が最も高くなっている。

性別、年代別でみると、20歳代及び30歳代の男性で、「性別により処遇が異なっていることはない」と答えた割合が低くなっている。

≪その他の回答≫

●緊急時における男性の勤務が当たり前。(女性保護)

●仕事の分担に差有り。(機械操作は男性、検査業務は女性など。)

●女性自身が社会的地位の向上に対して非積極的。(あきらめている印象)

●パートなので、内容（男女の差）については、よくわからない。

●「看護師」のため、他の職業と比べにくいところがある。

●男女共に、協力し合い結果を出せば良い。男だから女だからは、関係ない!

●男性だけの職場。

●仕事柄、女性はあまりいない。

●女性職員が多いので、この中で当てはまる物が少ないです。

●女性職場なので、感じない。

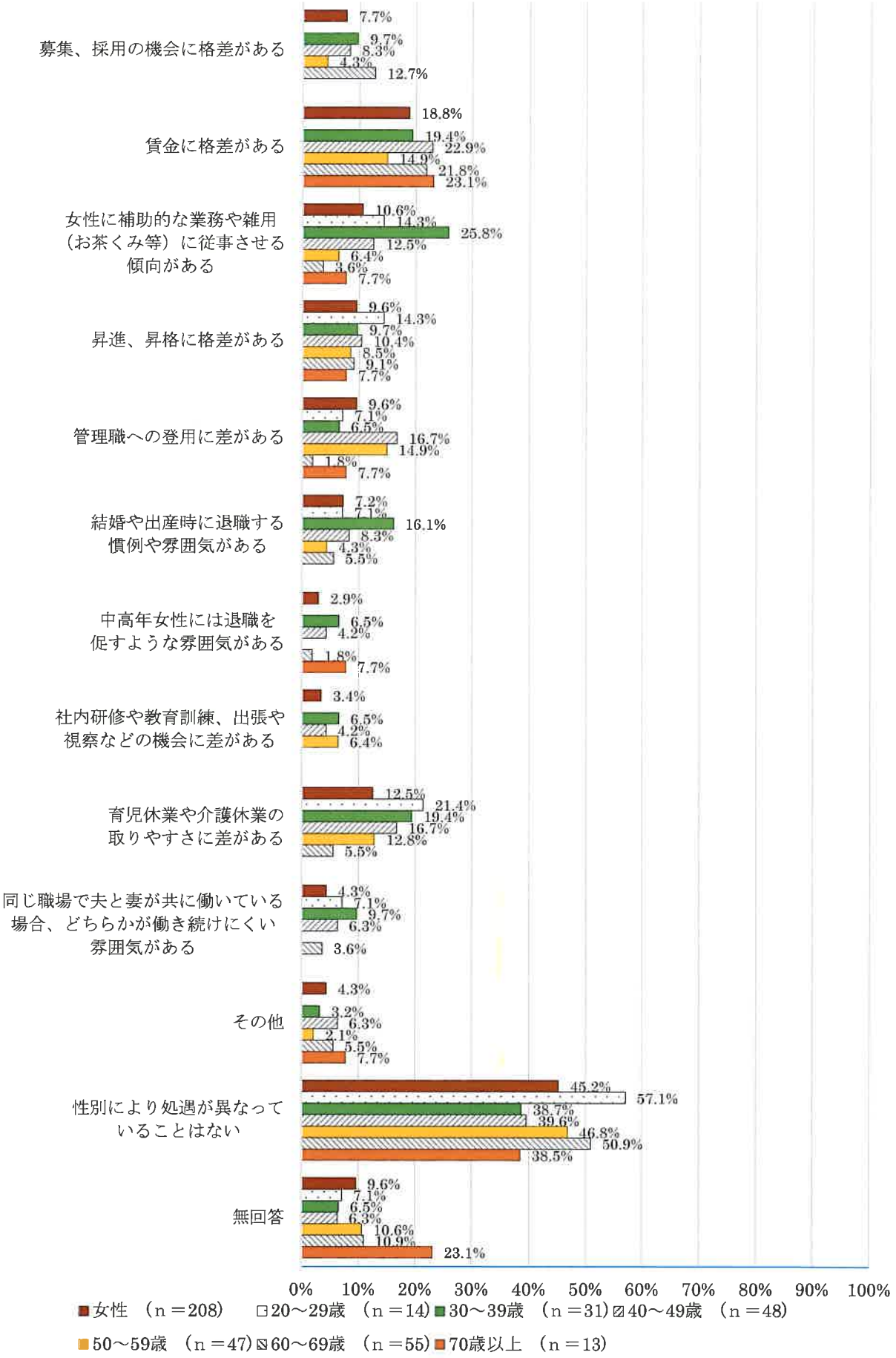
●女性だけの職場なので、比較出来ません。

●職員が雇用者を下に見ているので態度で嫌な感じを出される。

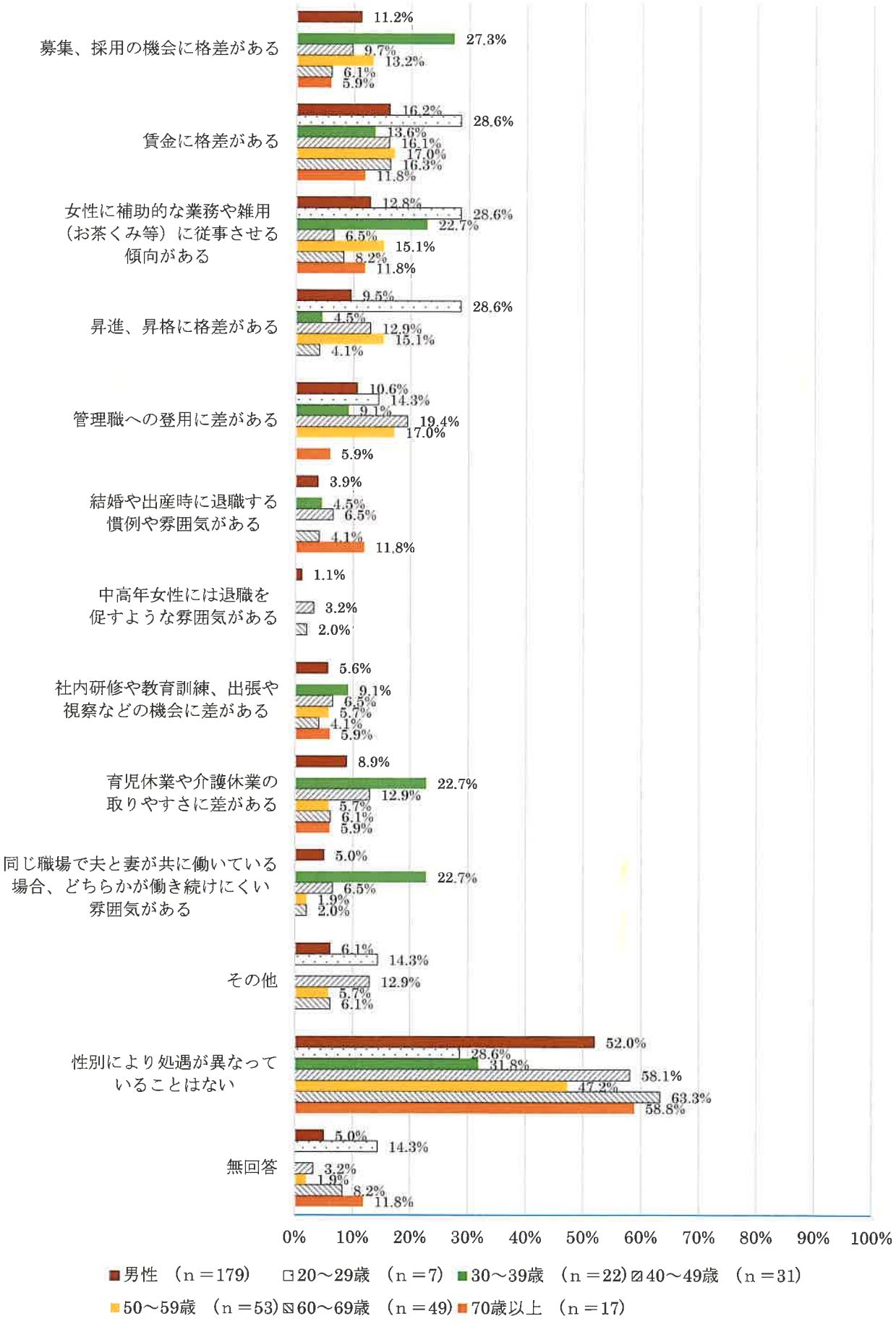
●変化なし。変わるわけがない！

●分からない。

職場での性別による処遇の差　【女性、年代別】



職場での性別による処遇の差　【男性、年代別】

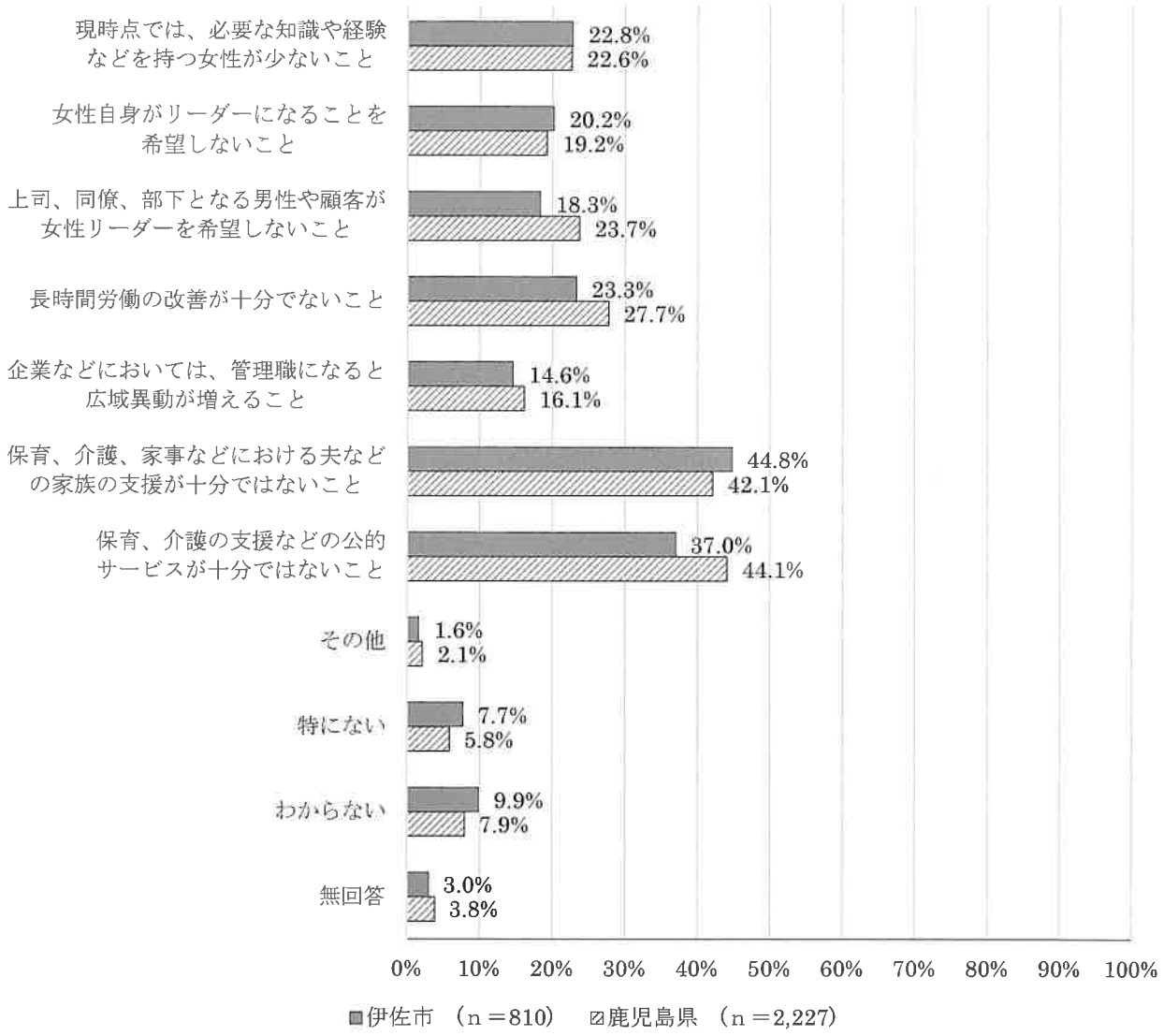


問８　あなたは、政治、経済、地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。（いくつでも選択）

女性のリーダーを増やすときに障害となるものについて、「保育、介護、家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」（44.8％）と答えた割合が最も高く、次いで「保育、介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」（37.0％）、「長時間労働の改善が十分でないこと」（23.3％）の順となっている。

鹿児島県と比較すると、「保育、介護、家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」と答えた割合が2.7ポイント伊佐市の方が高く、「保育、介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」と答えた割合が7.1ポイント、伊佐市の方が低い結果となっている。

各分野で女性リーダーを増やすときに障害となるもの　【県との比較】



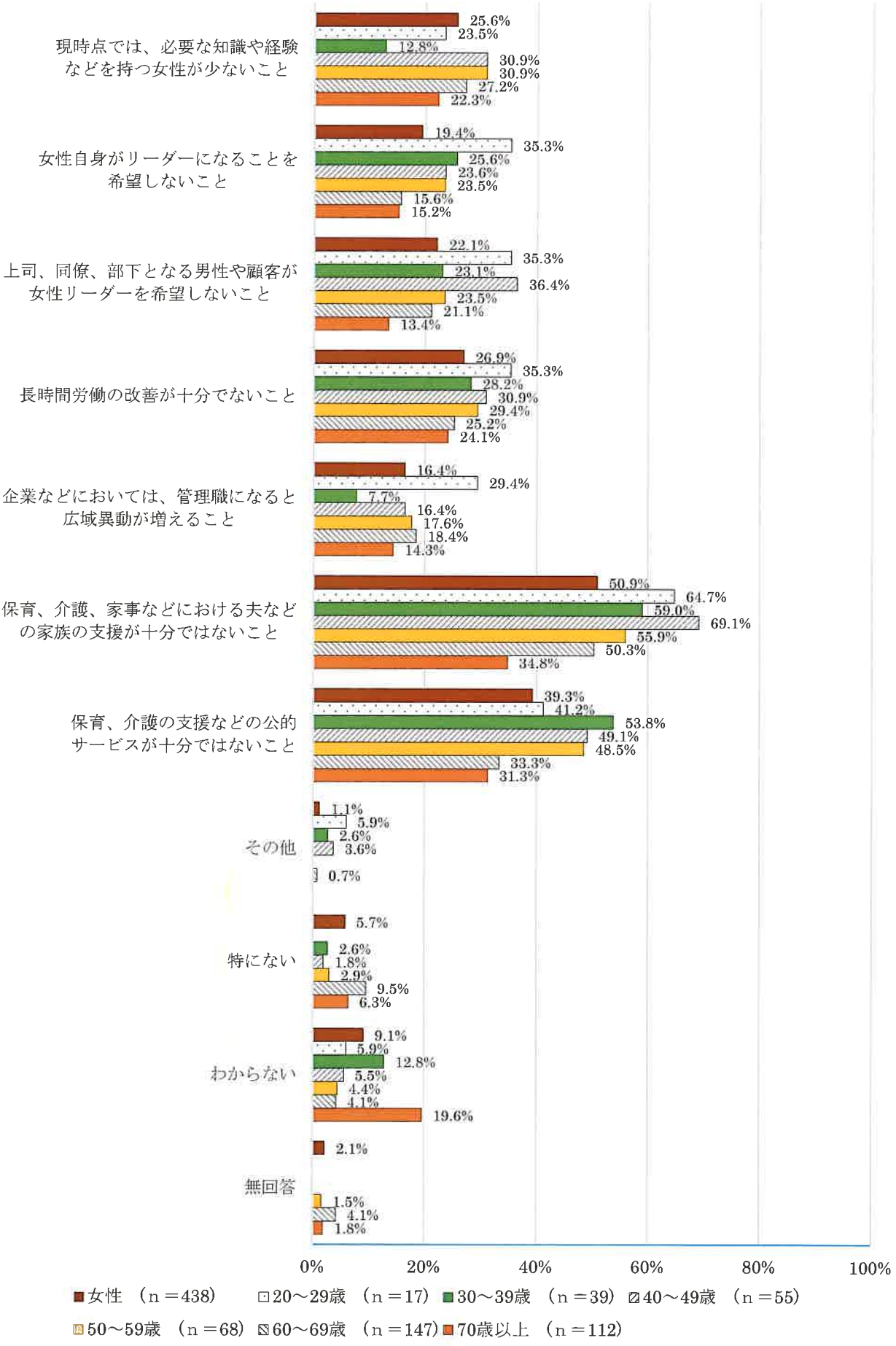
性別でみると、男女とも「保育、介護、家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」(女性50.9%、男性37.5%)と答えた割合が最も高くなっている。

性別、年代別でみると、70歳以上を除く女性では、「保育、介護、家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」と答えた割合が5割以上となっている。

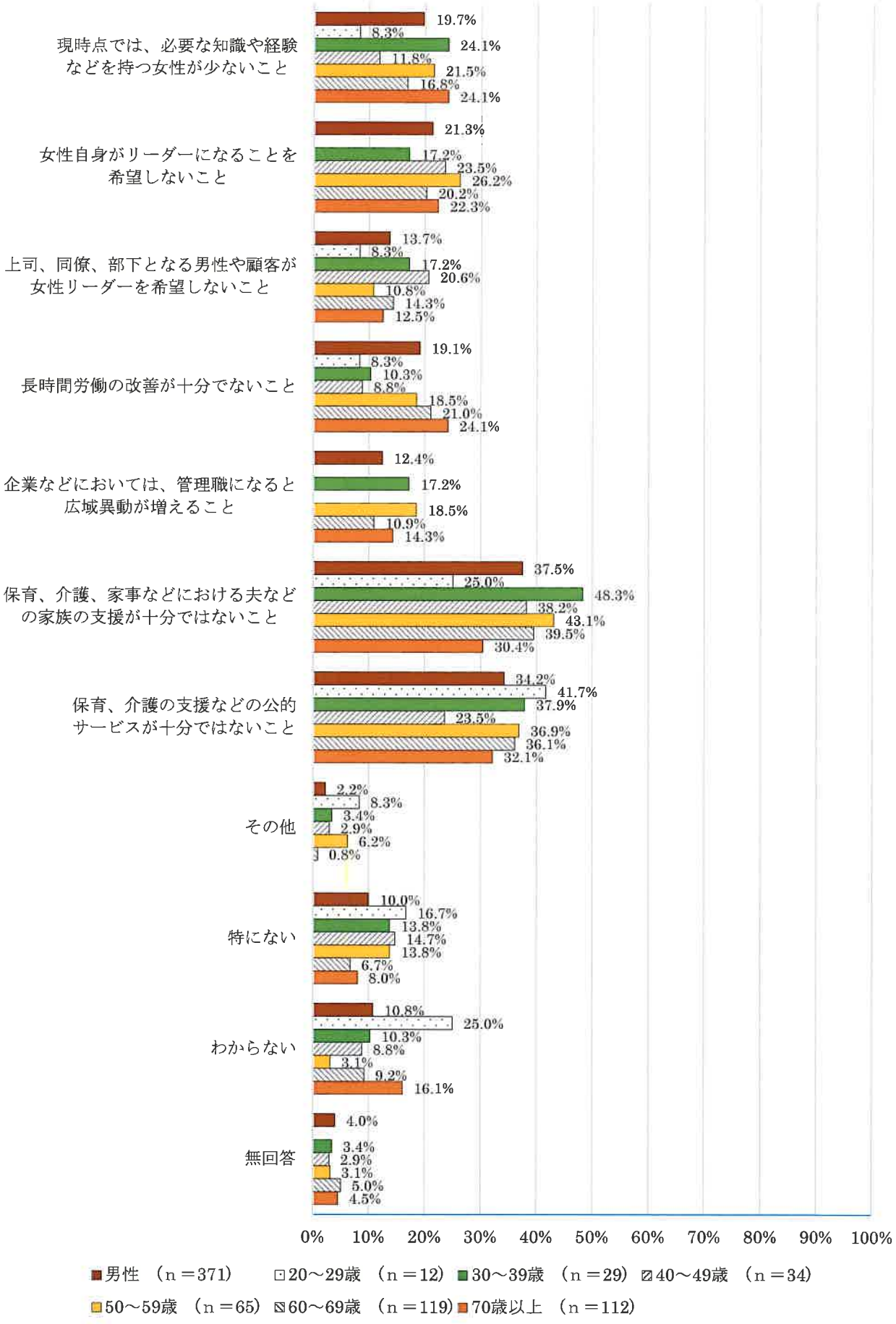
≪その他の回答≫

- 家族と過ごす時間が少なくなる。(子どもがいるならば、さみしい思いをしたり、自分の子どもの育児や教育に時間を使えなくなる。)
- 自分の意見や考えを言える女性は少ない。
- 社会的通念。
- 50才以上の方々に習慣的かたよりを感じる。
- リーダーになれそうな人がいるのに、市役所職員以外に知られていない。
- 基本的に女性は男性より性格がキツイので、リーダーには向いていないと思います。(サブぐらいがベスト)
- そもそも男性と身体の作りが違う。ホルモンバランスの乱れによる不調を「わがまま」と、とらえている風潮があるし、それを言いにくい雰囲気がある。
- 早朝の出勤や夕方からの会合等へは、女性は遠慮がちになりやすく、また災害等の緊急時の対応もスピード感に疑問。女性に有利な分野を生かして。
- 理解がない。
- どちらも、バランスが大事だと思います。

各分野で女性リーダーを増やすときに障害となるもの　【女性、年代別】



各分野で女性リーダーを増やすときに障害となるもの　【男性、年代別】

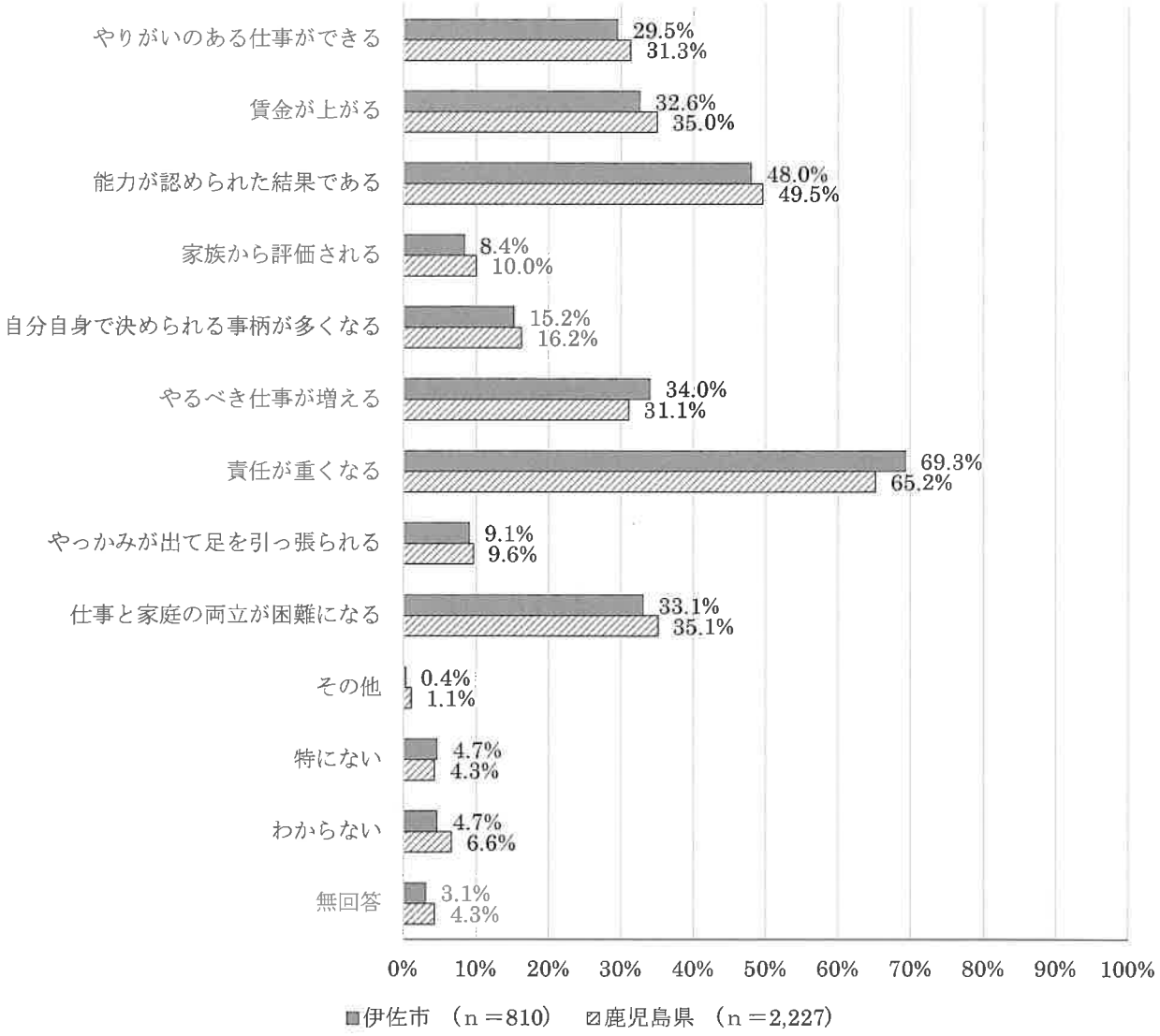


問９　あなたは、管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。（いくつでも選択）

管理職以上への昇進に対するイメージについて、「責任が重くなる」（69.3%）と答えた割合が最も高く、次いで「能力が認められた結果である」（48.0%）、「やるべき仕事が増える」（34.0%）の順となっている。

鹿児島県と比較すると、「責任が重くなる」と答えた割合が4.1ポイント、「やるべき仕事が増える」と答えた割合が2.9ポイント伊佐市の方が高い結果となっている。

管理職以上に昇進することについてのイメージ　【県との比較】



性別でみると、男女とも「責任が重くなる」（女性69.6％、男性69.0％）と答えた割合が最も高くなっており、「仕事と家庭の両立が困難になる」と答えた割合は、男性の21.0％に対して、女性では43.2％と高くなっている。

性別、年代別でみると、30歳代及び40歳代の女性では、「仕事と家庭の両立が困難になる」と答えた割合が５割以上となっている。

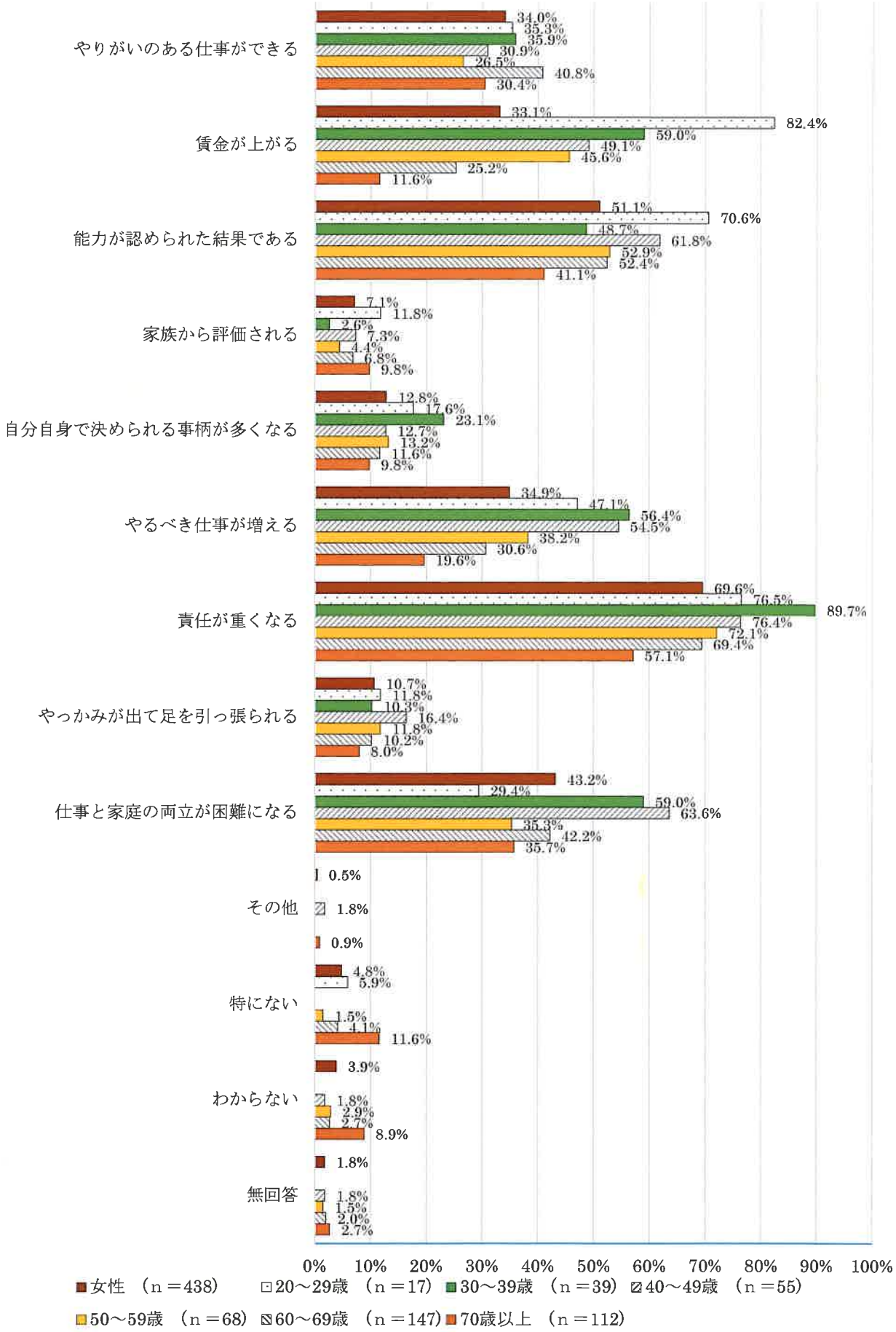
≪その他の回答≫

●人を育てることができる。

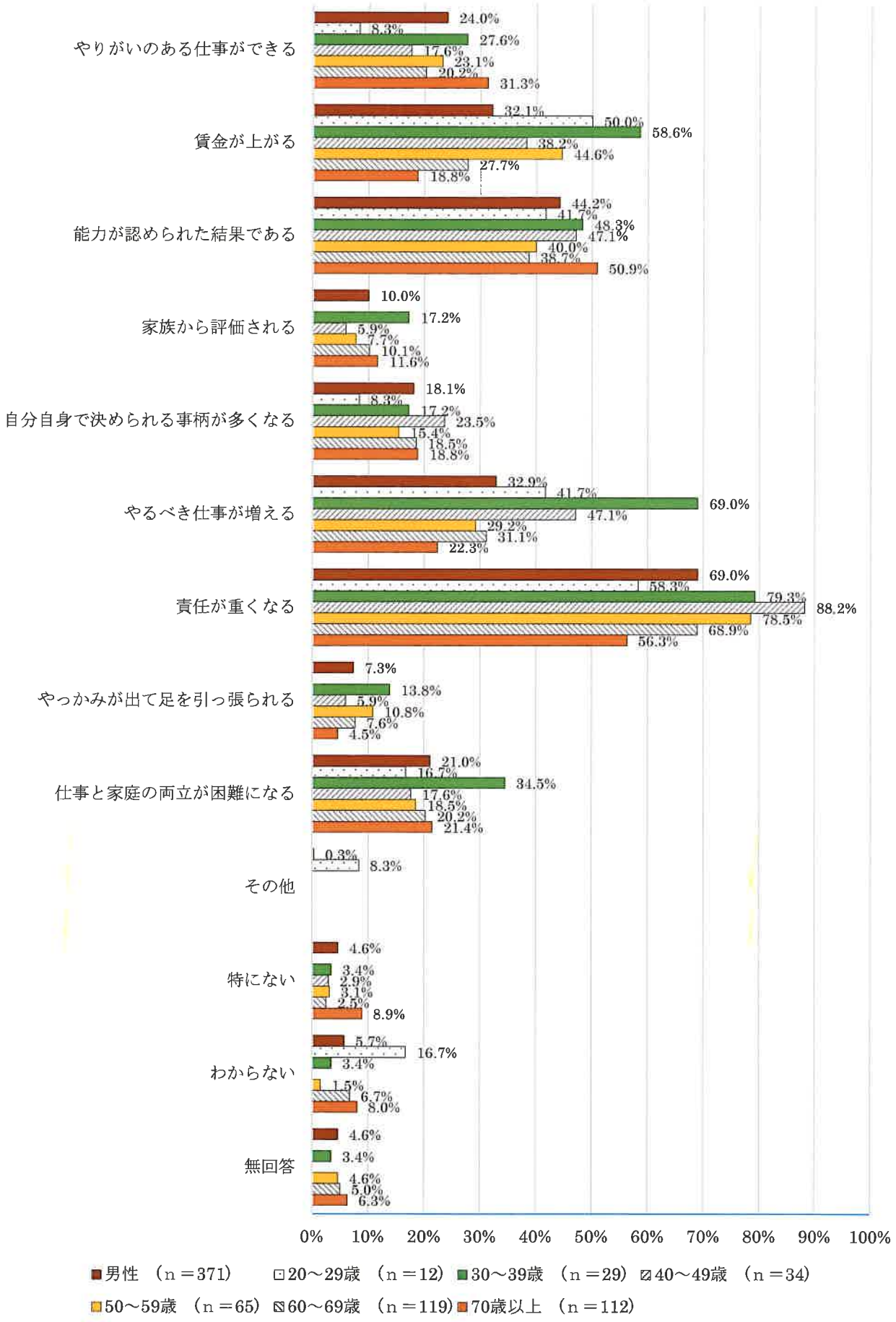
●若いうちは夢はたくさんあったが、現在を維持するのが現実。

●人材不足と、自己主張が多い人々を抱え込むのは、とてもおいしくない職業。

管理職以上に昇進することについてのイメージ　【女性、年代別】



管理職以上に昇進することについてのイメージ　【男性、年代別】

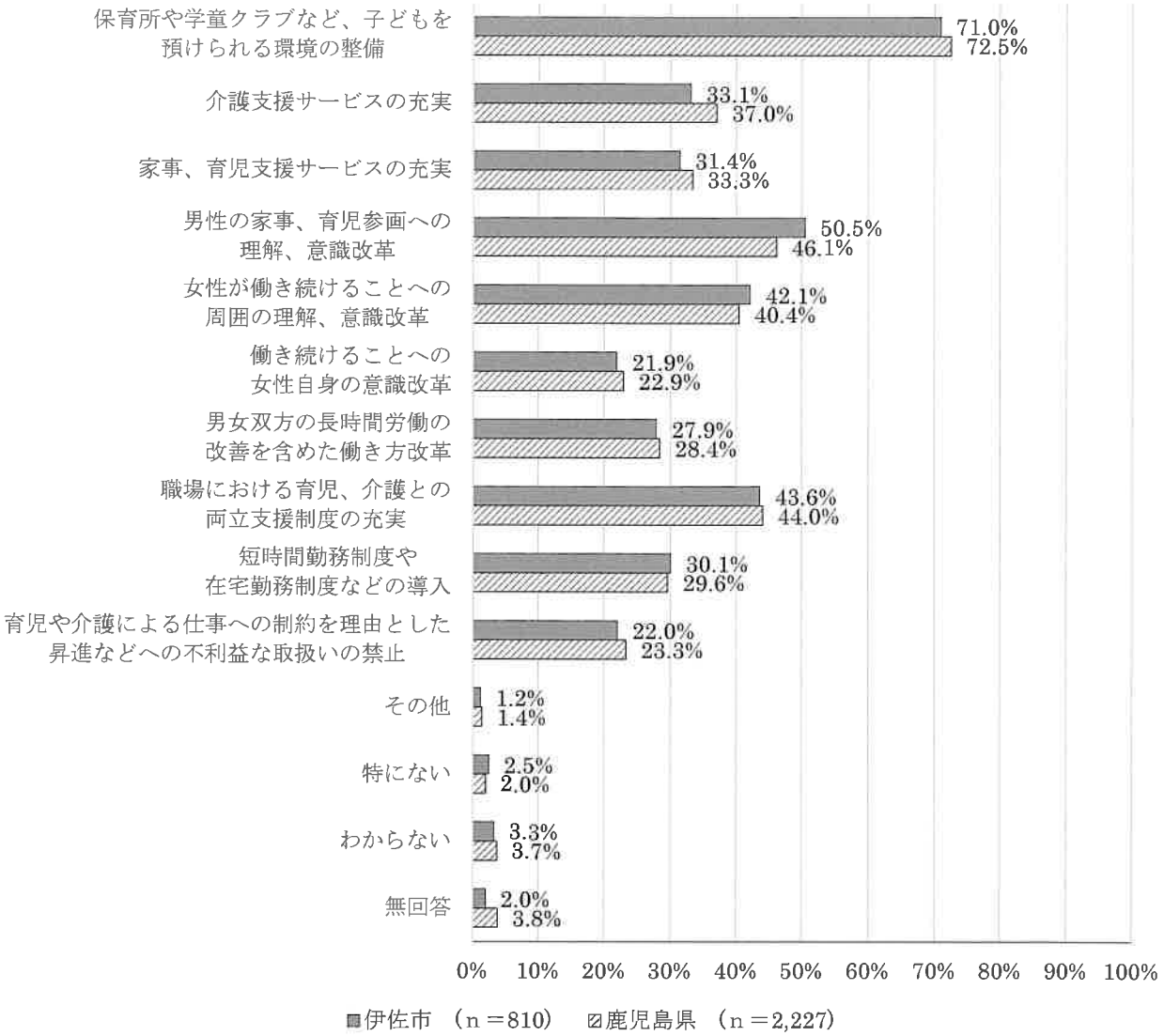


問 10　あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭、社会、職場において必要なことは何だと思いますか。（いくつでも選択）

女性が出産後も働き続けるために必要なことについて、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」（71.0%）と答えた割合が最も高く、次いで「男性の家事、育児参画への理解、意識改革」（50.5%）、「職場における育児、介護との両立支援制度の充実」（43.6%）の順となっている。

鹿児島県と比較すると、回答の順は同じとなっており、「男性の家事、育児参画への理解、意識改革」と答えた割合が4.4ポイント伊佐市の方が高い結果となっている。

女性が出産後も働き続けるために家庭、社会、職場で必要なこと【県との比較】



性別でみると、男女とも「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」（女性72.4%、男性69.3%）と答えた割合が最も高くなっており、「男性の家事、育児参画への理解、意識改革」と答えた割合は、男性より女性が、9.5ポイント高くなっている。

性別、年代別でみると、30歳代の女性、30歳代及び40歳代の男性では、「男性の家事、育児参画への理解、意識改革」と答えた割合が約７割と高くなっている。

≪その他の回答≫

●上司や同僚の育児への理解不足の改善。

●休みを取りやすい職場であること。（人員が十分にいる。）

●三世代同居でお互い助け合える、その支援。

●能力。

●女性の自分自身の意識次第だと思います。

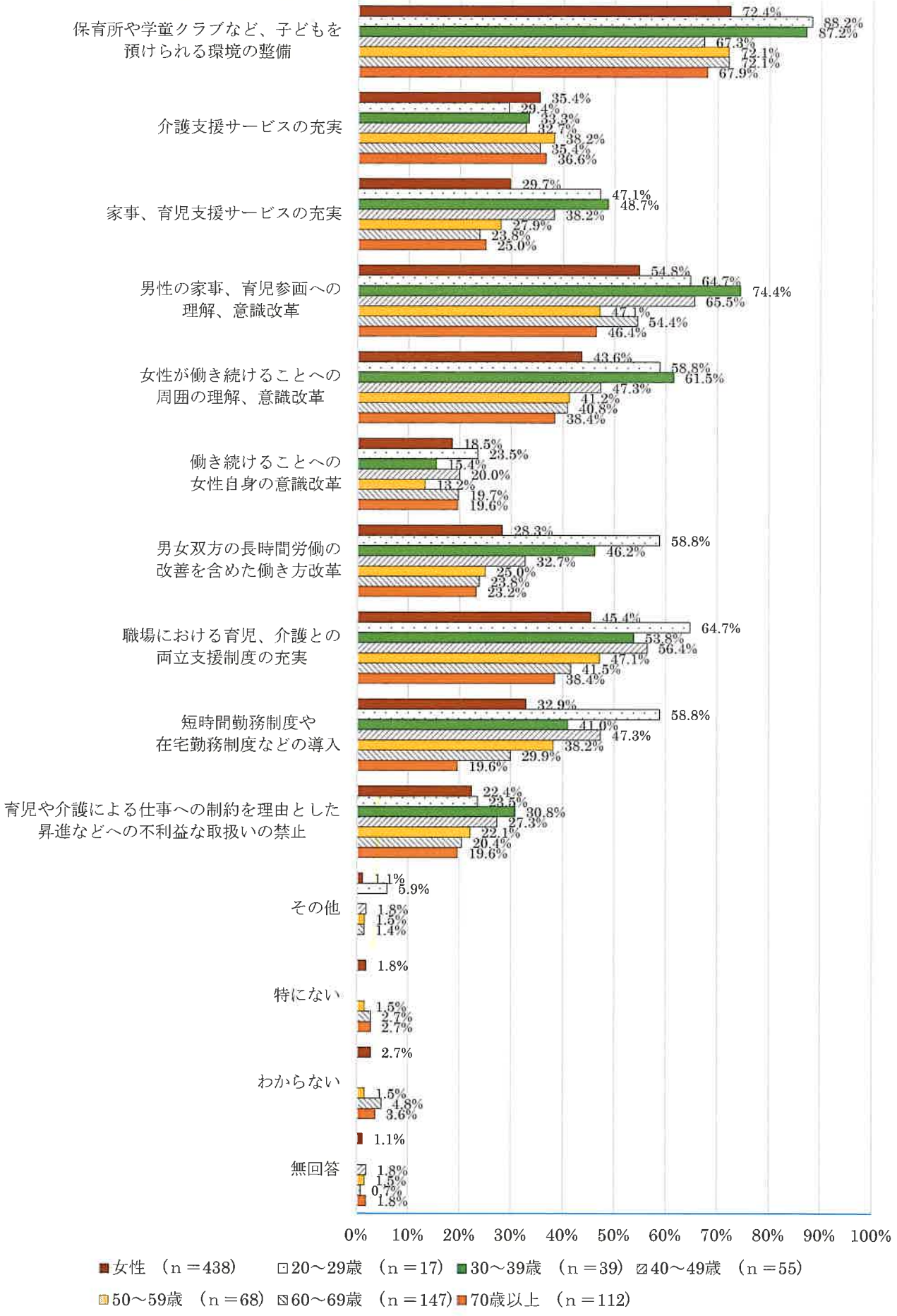
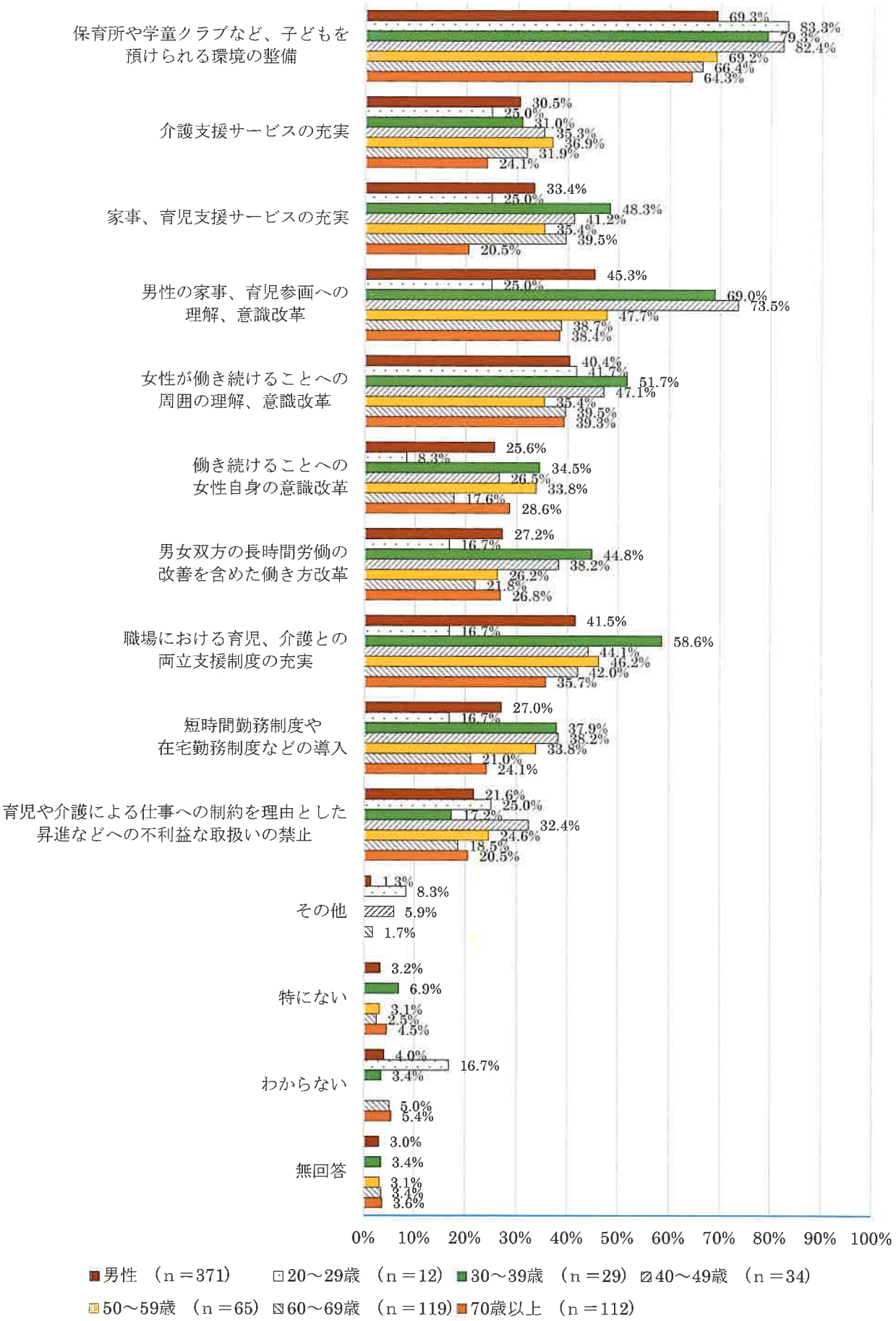
●法制度による過度の働き方改革を行わないこと。

●休んでいる間、他の者に負担がかからないようにするべき。（その期間だけ派遣社員を入れるとか。）

●選択肢は全て当てはまると思います。職場で時短、育児休暇などあっても職員の理解とか、難しい。年齢などでも対応が違うと思います。

●少子高齢化社会の中で、出産後も働き続けなければならない事情があるような気がするので、労働人口（生産）が増えるような政策により、女性が出産後、一定期間安心して休職できるような、社会の構築が必要だと思われる。そのことにより地域の安定もはかられると思う。

女性が出産後も働き続けるために家庭、社会、職場で必要なこと【女性年代別】



女性が出産後も働き続けるために家庭、社会、職場で必要なこと【男性年代別】